

総会フラッシュ

申請の受付を開始した。全国7会場で講習会を実施した他、申請ガイドブック(2019年度申請用及び2020年度申請用)、RPCA審査基準適合証明書等利用の手引き、リーフレットなど認証事業の作成も配布するなど啓蒙普及にも務め、最終的に製品審査67件、工場認証審査52件の申請を受けた。その後、順次一次審査(製品審査は書類審査、工場認証審査は工場検査)を実施した後、「道路プレキャストコンクリート工技術審査委員会」による二次審査(本審査)を実施。審査基準に適合した製品には「RPCA製品審査基準適合証明書」、工場には「RPCA工場認証審査基準適合証明書」を交付した。その他、道路プレキャストコンクリート工指針の改定に向けた調査・研究などにも取り組んだ。



大野会長

工場認証を実施し同事業を軌道に乗せると共に、審査事業の周知を図るための活動を展開する計画。
大野達也氏が会長に就任
PC建協
プレストレスト・コンクリート建設業協会(PC建協)は5月21日、同協会会議室で第8回定時総会を開催した。総会では2020年度事業計画、収支予算の内容について報告した。任期満了に伴う役員改選では大野達也副会長(オリエンタル白石)を新会長に選任した。また新任副会長に森拓也氏(ピーエス三菱)、新任監事に出口稔氏(コーアツ工業)が就いた。
2019年度の会員受注総額は3209億円(前年度比8%減)。高速道路会社からの受注が前年度比17%減と落ち込んだことなどが影響した。3000億円超えは5期連続。20年度は中央官庁や地方自治体からの受注が減少するものの、高速道路会社からの反動増が見込まれることから、全体の受注額は19年度を上回ると見込んでいる。



荒川会長

今年度は発注機関との意見交換会を、国土交通省道路局を皮切りに各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局、NEXCO3社、鉄道建設・運輸施設整備支援機構と8月から21年2月にかけて開催する。テーマは年度工事量の安定的な確保、働き方改革の推進(総労働時間削減への対応)、生産性向上の推進、インフラ長寿命化への対応の4項目。その他、安全への取り組みとして「PC建協セーフティリーダー」制度や、ウェブ版ソフトを使った事例情報の共有と活用、外国人労働者への安全対策を展開する計画。
施工事例集完成 PR活動を展開
KCマリン工業会(会長 荒川崇氏)は第24期通常総会を書面で開催し、2019年度事業報告・決算報告、令和2年度事業計画案・予算案を原案通り可決承認した。19年度のKCカード出荷実績は35基で累計は1453基

になった。
総会開催にあたり、荒川崇会長は書面で「令和2年度の通常総会は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、皆様の安全と感染拡大防止を鑑み、書面総会となりました。KCマリン工業会は平成7年の阪神淡路大震災の教訓を生かし、絶対に漏水しない防火水槽を提供するメーカーの集まりとして平成9年に発足し、早23年が経過しようとしています。会員皆様のお力添えにより、現在までに約1400基を超える実績を上げることができました。
総務省が発表した防火水槽等の消防防災施設の整備促進を図る消防防災施設整備費補助金の額は、令和元年度当初予算では13・5億円と平成30年度の13億円に対して増額でしたが、令和2年度予算案では13・5億円と前年同額でした。令和元年度全体の防火水槽設置基数は、平成30年度の2117基より133基少ない1984基でした。構造別の比率はRC製75・8%、鋼製23・8%、FRP製0・4%、ダクタイル製0・0%でシェアとしてはRCがトップを占めています。

ト工法・かぶせーる工法について高い評価を得ることができました。また、今まで積み重ねた実績の中で特殊な現場の事例集も作成しました。条件が悪く発注者が補修をあきらめているような現場打ち水槽でも消防水利が確保出来る工法であることを示し、新設よりも低予算で長寿命化を図れることを解りやすく編集しているため、PRに活用していただき、会員各社を祈念しています」と挨拶した。
同工業会では今年度、営業・技術部会を中心に▽適正価格の構築▽かぶせーる、リーブシート工法の拡販(DM、大都市・地方都市へのPR)▽会員各社への販売支援の実施に取り組み計画。
マリン防火水槽はケイコンが開発した埋設型防火水槽(日本消防設備安全センターによる認定取得済)。クラレと共同開発した長期耐久性・耐候性・耐アルカリ性に優れた多層特殊樹脂製の防火水槽専用シート・KCガード(防水内包装袋)による二重構造で優れた防水性能・耐震性能を付与することができる。
さらに、その技術を使って既存現場打ち防火水槽の補修工法「かぶせーる、リーブシート」を開発、蓋のない既設防火水槽の有蓋化や老朽化した防火水槽のリニューアルにも取り組んでいる。